

小学校道徳科において自己の変容や成長に気付く児童の育成 —スタディ・ログ「DARS」を活用した振り返り活動を通して—

前橋市立大利根小学校

樺澤 裕美

I 主題設定の理由

浅見(2023)は、特別の教科 道徳(以下「道徳科」)の授業において、「人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢が求められる」(p. 40)と述べている。授業の中で自分の心を見つめたり、日常の出来事とつなげて考えたりすることで、児童が自立した人間として、他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うことができるものとする。しかし、児童を対象とした事前アンケート(9月)の結果から、道徳科で何を学習するのかを理解できていない児童がいることが分かった。授業の終末における児童の振り返りにおいては、教材の学習感想が多く、何をどのように学んだか、何に気づき、どう生かしていきたいのか、自分との関わりで書けないという傾向が見られた。筆者のこれまでの授業を振り返ってみても、児童が道徳科で学んだことを基にして、自分の心にしっかりと向き合うことができるようにするための支援を十分に行うことができていなかった。さらに、置籍校において、教員を対象とした事前アンケート(8月)の結果から、指導書を参考にしながら、ねらいに迫る発問を考えたり、教材の内容を把握しやすいよう場面絵等を準備したりするなどの指導の工夫を行っているものの、振り返り活動については、自己を振り返り、生き方について考えを深められるようにすることについて難しさを感じている傾向が見られた。その上、学期末や学年末などの大きくくりなまとまりの中で、道徳科の学びを振り返る授業を行っている教員の割合は少なかった。以上のことから、道徳科における児童の学びが一単位時間の教材ごとの学びに留まってしまい、年間を通した学びを振り返り、自己の変容や成長を実感するまでには至っていないことが明確であり、ここに課題があると考えられる。

そこで、本研究では主題を「小学校道徳科における自己の変容や成長に気付く児童の育成」と設定した。

II 研究のねらい

小学校道徳科において学習履歴(スタディ・ログ)として作成した「DARS(Doutoku Accumulation(蓄積)Review(評価)Sheet)」(以下「DARS」)を活用した振り返り活動を行うことで、自己の変容や成長に気付くことができるようになるか、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

小学校道徳科において、スタディ・ログとして一覧シート「DARS」を作成し、以下の三つの振り返り活動を位置付けることで、自己の変容や成長に気付くことにつながるであろう。

1 一単位時間における振り返り活動

- 授業の導入において、「DARS」を基に、本時で扱う道徳的価値の方向付けを図る。
- 道徳ノートに本時で学んだことを記述する際には、「振り返りの視点」を提示するとともに、記述した内容を「DARS」に蓄積する活動を設定する。

2 ユニット学習における振り返り活動

- 児童の問題意識に基づくテーマを設定し、異なる内容項目（複数教材）を連続して学ぶ「パッケージ型ユニット学習」（田沼, 2023）（以下「ユニット学習」）を取り入れる。一単位時間における振り返り活動に加え、ユニット学習の終わりに「DARS」を見返し、そのテーマについて学んだことを振り返る活動を設定する。

3 学期末や学年末における振り返り活動

- 「DARS」全体を見返し、大きくくりなまとまりの中で、道徳科で学んだことやその生かし方などを振り返る活動を設定する。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 自己の変容や成長に気付く

児童が行う自己評価は、児童の学習活動の一つである。自己評価によって、児童が自身自身のよい点や可能性に気づき、自己の生き方について考えを深めることに役立つものである。永田(2016)は、道徳科における評価の中で、「自己評価は真の自分自身の姿を知ることの契機となり、よりよい生き方の第一歩となる」、「自己評価を確実に積み重ねていけば、客観的に自己分析することができるようになる」(p.32)と述べている。そのためには、年度当初に自己の課題や目標を捉える活動を設定したり、学期末や学年末などに自己の学びを振り返る活動を工夫したりする必要がある。また、一単位時間においては、授業の終末に自己の学びを振り返る活動が、児童にとっての自己評価の時間であると考えている。道徳科の目標に掲げられた「自己の生き方について考えを深める」とは、学習した道徳的価値が自分にとってどのような意味があるのか、また、どのように生かしていけるのかを考えることであると捉える。一単位時間ごとの学びの振り返りを蓄積し、児童が自ら見返して自己評価することで、自己の変容や成長に気付く、道徳科が継続的な学びであることを意識できるようになると考える。

本研究における「自己の変容や成長」とは、児童が「今までの自分の経験や今の自分との関わりで考えている」「多様な考えに気付いている」「自分の考えのよさを再認識したり、自分の考えに新たな考えを加えたりしている」「自分のよさや可能性に気付いている」「新たな課題や目標を見付けている」こととする。

(2) スタディ・ログ「DARS」

筆者は、「道徳ノート」の活用について、児童が考えを書いたり、発表したりする際には便利であるが、内容項目とのつながりを意識したり、道徳的価値を多面的に捉えたりするためには活用しづらいと感じる場面があった。前田(2022)は、道徳科の学習の振り返り活動について、一回の振り返りで終わるのではなく、一覧性を高めて学びの記録が俯瞰できるようにすることが重要であると述べている。また、木村(2022)は、生徒が自らの学習

履歴(スタディ・ログ)を活用して記述・蓄積し、整理・見直しを行うことで、より体系的な振り返りができるようになると述べている。

そこで本研究では、一年間の学びを一覧で可視化できるシート「DARS」を学習者用端末上に作成する。児童は道徳ノートに本時で学んだことを記述し、その記述を「DARS」に保存して蓄積する。児童が「DARS」を見返すことで、これまでの道徳科での学びを俯瞰して捉え、自己の変容や成長に気付くことができると考える。また、「DARS」は内容項目ごとに蓄積していくため、児童が一つの内容項目について、いくつかの教材を通して学んだことを関連付けながら道徳的価値を多面的に捉えることができると考える。さらに、学習者用端末に蓄積していくことで、授業以外の場面、例えば、家庭においても時や場所を選ばずに道徳科で学んだことを振り返ることができると考える。

2 手立ての説明

「DARS」の作成と三つの振り返り活動について、以下に説明する。

(1) 「DARS」の作成

児童が学習者用端末を使って、毎時間、学んだことを蓄積していくことを考えると、「DARS」は児童にとって容易に操作できることが望ましい。また、一年間の道徳科での学びを可視化できるようにするために、内容項目のまとめりである四つの視点を、「四つの窓」で表現し、色分けを示す(図1、表1)。



図1 「DARS」

表1 道徳科の四つの視点とDARSに示した「四つの窓」

四つの視点	A 主として自分自身に関すること	B 主として人との関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
DARSに示した四つの窓	自分のこと	相手のこと	みんなのこと	命や自然のこと
DARSで示した色	ピンク	オレンジ	青	緑

内容項目の表記については、児童が内容項目を捉えやすいように、安井(2023)の表現「22の心」(低学年では「19の心」、中学年では「20の心」)で置き換えることとした(p. 25資料2)。以下、「内容項目の心」と称す。内容項目を端的な言葉で表現することで、道徳科の学習を通して目指す姿を言語化し、児童と共有していくとともに、それを意識した学びを促していく。

(2) 道徳科オリエンテーションと三つの振り返り活動

児童が自己の変容や成長に気付くためには、学習したことを振り返る活動を適切に設定する必要があると考える。そこで、一単位時間の終末、ユニット学習のまとめの時間、学期末や学年末のそれぞれにおいて振り返り活動を位置付ける(図2)。



図2 1年間の振り返り活動の位置付け

学期末や学年末の大きくくりなまとまりで道徳科で学んだことを振り返るためには、児童自身が「何をどのように学んだのか」について意識できるようにする必要があると考える。浅見(2020)は、4月から5月において、道徳科の授業の学び方を学ぶ要素を織り交ぜながら授業していくことの必要性を挙げている。児童が道徳科においてどのような学び方をしていくのか見通しをもてるようにすることで、その後の道徳科の授業が児童にとって深まりのある有意義な時間になると述べている。そのため、年度当初に、道徳科の学び方についてのオリエンテーションの授業を設定する。

(3) 一単位時間における振り返り活動

授業の導入では、現状の自分の道徳的価値に対する考えに気付くことができるように、「DARS」を基に、本時で扱う内容項目について触れ、道徳的価値の方向付けを図る。児童が一単位時間で学んだことを記述した内容が、道徳的価値につながっているものであり、自分との関わりで、何をどのように学んだか、何に気付きどう生かしていきたいのかについて自分の言葉でまとめていることが望ましい。そこで、道徳ノートに学んだことを記述する際には、「振り返りの視点」として、今までの自分(自分の体験等を想起しながら振り返る)、今日の授業(道徳的価値について気付いたことや学んだこと、考えたこと)、これからの自分(大切にしたい考え、学んだことをどのように生活に生かしていきたいか、そのように考えたのかなぜか)の3点を提示し、学んだことを自分との関わりで書くことができるように支援していく。

授業の終末では、児童が振り返りの記述を「DARS」の本時で扱った内容項目の場所に保存する時間を設けることとする。

(4) ユニット学習における振り返り活動

ユニット学習は、児童の問題意識に基づくテーマを設定し、複数時間の小単元として扱うことで、連続的な指導を行う(表2)。内容項目を単独に指導するよりも児童の学習意識も明確になり、より自分事として捉えられるようになる。そこで、ユニット学習の最後には、もう一度テーマについて考える「ユニット学習のまとめの時間」を設けることとする。

表2 ユニット学習の構想手順(例)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">①児童を対象に実態調査を行い、日常生活における課題を洗い出す。②学校の重点目標や児童の実態を基に、テーマを設定する。③テーマに即して異なる内容(複数の教材)を組み合わせて、ユニットを組む。④ユニットとして組み合わせた複数教材を連続して扱い、それぞれの授業後に、一単位時間で学んだことについて振り返る活動を設定する。⑤ユニット学習の終わりに、テーマについて学んだことを振り返る活動を設定し、学習のまとめを行う。 |
|--|

(5) 学期末や学年末における振り返り活動

学期末や学年末における振り返り活動では、どの教材が心に残っているかという内容ではなく、教材を通して自分がどんな「心」について考えを深めることができたのか、「DARS」を基に「内容項目の心」と関連付けて振り返ることができるようにする。その際、「道徳科でどのような学び方をしてきたか」、「道徳科で学んだ“心”が生活の中でどのように生かされているか」、「自分が成長したと思うことはどんなことか」等の視点を提示する。大きくくりなまとまりの中で道徳科での学びや学び方について振り返る活動を設定することで、児童が自己の成長を捉えられるようにする。

以上の研究構想を図3に示す。



図3 研究構想図

V 研究の実践

1 実践計画

(1) 実践の対象

勤務校の第5学年3学級79名を対象として実施した。

(2) 教材名

ユニット学習では、テーマを「いじめについて考えよう」と設定し、以下の三つの教材を用いて実践を行った。(いずれも日本文教出版)

「真由、班長になる」 C-(16) よりよい学校生活、集団生活の充実

「名前のない手紙」 C-(13) 公正、公平、社会正義

「折れたタワー」 B-(11) 相互理解、寛容

(3) 実践期間

令和5年9月22日～11月9日(6時間×3クラス=全18時間)

2 検証計画

検証の視点1 「DARS」について、「DARS」が使いやすいものであったかどうかを検証する。

検証の視点2 「道徳科オリエンテーション」について、児童が道徳科の学び方について見通しをもつことができたかどうかを検証する。

検証の視点3

検証の仮説	検証の視点	検証方法
「一単位時間における振り返り活動」「ユニット学習における振り返り活動」「学期末や学年末における振り返り活動」の三つの振り返り活動を位置付け、「DARS」を活用することで、自己の変容や成長に気付くことができるであろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの自分の経験や今の自分との関わりで考えている。 ○多様な考えに気付いている。 ○自分の考えのよさを再認識したり、自分の考えに新たな考えを加えたりしている。 ○自分のよさや可能性に気付いている。 ○新たな課題や目標を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 三つの振り返り活動において、 ○観察 ○振り返りの記述(児童) ○抽出児の変容 ○聞き取り(児童) ○事前・事後アンケート(児童) ○事前・事後アンケート(教職員)

3 実践内容

授業実践は、図4の流れで行った。

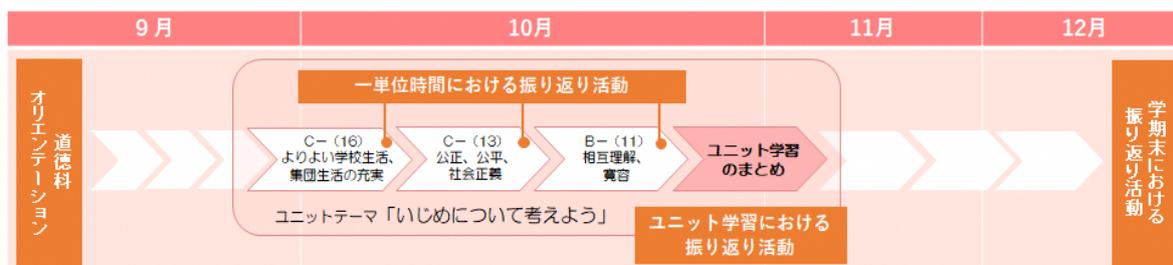


図4 実践の流れ

なお、道徳科オリエンテーションは、年度当初に行うことが望ましいが(浅見, 2020)、本実践では、筆者が実践可能な二学期の始めに行った。

また、本研究の汎用性を確かめるために、第3学年の担任3名に協力を依頼し、10月中旬に道徳科オリエンテーションを実施するとともに、ユニット学習を設定し、三つの教材を用いて、授業実践を行ってもらった。

(1) 「DARS」の作成

「DARS」の作成に当たっては、児童が操作に慣れていることから、ベネッセの学習支援アプリケーション「ミライシード オクリンク」(以下「オクリンク」)を使用した(図1、p. 24資料1)。ミライシードのオクリンクには、「学習カード継続機能」があるため、毎時間の学習を蓄積することが可能である。「DARS」には学んだことを直接入力することもできるが、本研究では、これまでに用いてきた道徳ノートを継続して使用することとした。児童は道徳ノートに記述した内容を学習者用端末で撮影し、「DARS」にその画像を貼って蓄積した。貼り付け場所が明確になるように、教科書の教材番号を挿入した。「DARS」は、児童の個人フォルダに保存するとともに、毎時間、アプリ内の提出BOXに提出するよう促し、教師は児童の記述内容を確認した。

(2) 道徳科オリエンテーション

オリエンテーションでは、道徳科の学び方について見通しをもつことができるようにするために、以下の四点の内容を取り入れた(p. 25資料3)。

① 道徳科で学ぶこと

「道徳科は何を学ぶ時間か」と児童に問いかけ、それぞれの考えを共有した後、「友達や周りの人たちと一緒に生活していくために大切な“心”を考え、よりよい生き方へと導く“心”をみんなで考える時間(高学年)」であることを説明した。年間35時間(1学年は34時間)の中で、教材に含まれる道徳的な問題を自分事として捉えて考えていくこと、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることを通して、友達の考えを知り、自分の考えを広げ深めていくこと、そして道徳科の学びを生活につなげることを目指していることを伝えた。

② 四つの視点について

道徳科の学習内容に四つの視点があることを伝える際は、四つの視点を「窓」に例えた。一学期に学習した教材を「四つの窓」に当てはめ、教材から学んだことを想起させながら内容項目の「〇〇の心」と関連付けていった。

③ 学び方と約束について(交流の演習)

一単位時間の授業は「①気付く②考える・深める③見つめる・生かす」の過程で学ぶことを伝えた。また、道徳科では、自分が考えたことや思ったことを伝えることや、そ

の際の約束「友達の考えをしっかりと聞く」「自分の気持ちや考えを友達に伝える」ことについて確認した。「②考える・深める」の過程については、交流の演習を行った(図5)。「～ば、可能性は無限大」の空欄に当てはまる言葉について、グループで考えを出し合う活動を行った。空欄には、「努力すれば」「みんながいれば」など児童の考えが表出された。交流の際は、安井(2023)の「反応のあいうえお」を参考にしたあいつちの例(図5)を紹介することで、反応の仕方の練習も行えるようにした。

④ 「DARS」について

道徳ノートに書いた学んだことの記述を「DARS」に蓄積していくことを児童に伝えた。「DARS」は「内容項目の心」について自分がどのようなことを学んできたかを振り返ることができること、家庭においても、「DARS」を見返して道徳科で学んだことについて振り返ることができることを説明した。オリエンテーションの終末では、「振り返りの視点(今までは(も)～、今日の学習では～、これからは～)」を示し、今までの道徳科の捉え方、今日の学習で気付いたこと・学んだこと、これからの道徳科の学習への取り組み方等について振り返る活動を設定した(表3)。

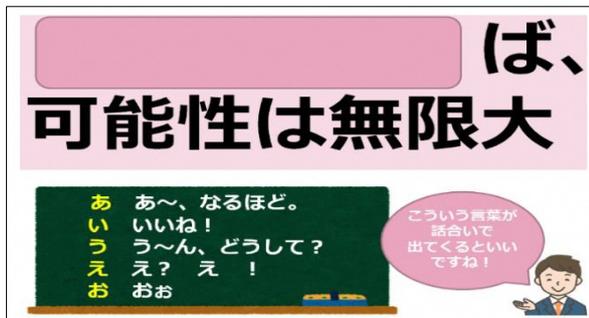


図5 演習のテーマとあいつちの例を示した提示資料

表3 オリエンテーション後の児童の記述

<p>今までは、道徳の授業を、よい話を読んで、ただ気持ちを考えるだけだと思っていたけれど、すごく深いんだなと思った。</p> <p>今日の学習で、道徳には四つの窓があり、分類されていることを知った。</p> <p>これからは、このお話はどの窓かをきちんと知り、新しく知った考えや気持ちを取り入れようと思う。</p>

(3) 一単位時間における振り返り活動

導入の段階では、「DARS」を用いて、児童の振り返りの言葉を基に前時で学習した「内容項目の心」について振り返った。本時で扱う道徳的価値の方向付けを図るため、本時の「内容項目の心」について確認した。また、児童のこれまでの生活経験の中から主題や道徳的価値、内容項目に関する事柄について問いかけた。知っていること、知っているができないこと、できていることなどを認識させることで、関心や意欲を高めたり、問題意識をもてるようにしたりした(表4)。

展開の段階では、自己の変容や成長を実感しやすい展開となるよう工夫するとともに、「振り返りの視点」を提示した。展開の工夫として、道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度振り返る過程を大切にした。そのための発問の工夫と板書の工夫を行った。発問の工夫では、教材理解に留まらず、児童自身が価値理解を深めていけるように、道徳的価値のよさや意義を直接問う発問を行った(表5)。

また、板書の工夫については、児童が学習前と学習後の変容を可視化できるように、登場人物の意識や場面、児童の道徳的価値の捉え、行為を生む動機や大本の心などを対比できるように分けて板書した(図6)。

表4 問いをつくるための児童との対話

T:「DARS」の「自分自身に関すること」の窓を見てください。今日は「広い心」について考えていきましょう。
 「広い心」を持っている人は、どんな人だと思いますか？
 C:優しい人
 C:何でも許せる人
 T:同じように思っている人？(C:多くの児童が挙手)
 なるほど。でも、本当にそれだけかな？
 なんでも許せない人は広い心を持っているって言えないのかな？
 C:(広い心ってどんな心だろう…?)
 T:今日は、「折れたタワー」のお話を通して「広い心」について考えていきましょう。

表5 道徳的価値のよさや意義を直接問う発問

教材名	発問
真由、班長になる	・みんなが気持ち良く集団生活をするためにどんな考え方が大切だろう。
名前のない手紙	・いじめを止めたい気持ちがあるのに、みんなが言わないのはなぜだろう ・心の弱さを乗り越えて正しいことをするために大切なことは何だろう。
折れたタワー	・許すことができたひろしは広い心を持っていると言えますか。広い心を持っている人はどんな考え方ができる人だろう。 ・広い心をもつよさは何だろう。

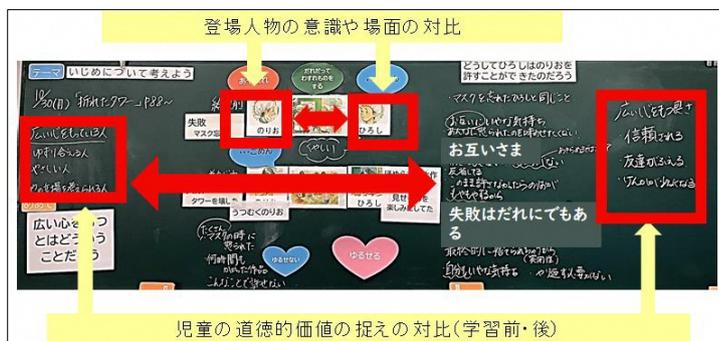


図6 板書の工夫「折れたタワー」B-(11) 相互理解、寛容



図7 「DARS」に振り返りの記述を保存している児童の様子

終末の段階では、児童が教材から離れて自分の体験等を想起しながら、学んだ道徳的価値について自分との関わりで考えられるように、「振り返りの視点(今までは(も)～、今日の学習では～、これからは～)」を提示した。振り返りの視点を提示したことで、道徳ノートには教材の内容や感想に留まらず、自分との関わりで道徳的価値のよさや大切さについて考える記述が見られた。記述が終わった児童は、授業を重ねるごとにスムーズに「DARS」に保存することができるようになった(図7)。授業後は、「内容項目の心」について学習したことを児童の言葉でまとめたものを掲示したり(図8)、学級担任に日常生活で似たような場面があったら道徳科で学んだ心について触れるよう依頼したりして、「DARS」を生かして、児童が日常生活と学習内容をつなげることができるようにした。

ユニット学習
テーマ いじめについて考えよう

3 **広い心で違う立場や意見を尊重する心**
 ◇失敗は誰にでもある◇相手の気持ちを考える
 ◇自分にもあることだから、お互い様の気持ち。

ひろしのようにはなれないかもしれないけど、広い心の大切さがわかった。

相手の気持ちを考えることが大切だと思った。

心が広いといいことがあるってわかった。

お互い様の気持ち

なんでも許せるわけではないけど…許す理由を探したい。誰にでも失敗があるから。

人の立場に立って考えられる人。

自分にもあることだから…責め続けてもいいことがない。

図8 児童の振り返りの記述を基に作成した掲示物

第3学年の実践においては、導入で「DARS」の「内容項目の心」を示さず、本時で扱う「窓」のみを示したことがあった。すると、授業の終末で、本時の学習に該当する「内容項目の心は何か」について自ら考える姿が見られた。児童は「DARS」や板書、学んだことの記述を見比べながら、「この心かな」「いや、この心の方が近いよ」などと友達との話し合いが始まった。このような姿から、本時で学習する内容によっては、授業の導入で本時の内容項目をあえて提示しないという方法も考えられる。内容項目を意識し本時のゴール

を明確にすることは大切だが、内容項目について理解させる傾向が強くなってしまうと、知的な理解に留まってしまうので、十分留意する必要があることが第3学年の実践から示唆された。

(4) ユニット学習における振り返り活動

第5学年の児童は、「素直で明るい、活発である、指示されたことはできる、自分の考えや思いを表現する力が乏しく友だちと楽しく過ごせるが人間関係をうまく築けない子がいる」という実態が見られる。この実態を踏まえて、ユニット学習では、人権集中学習と関連させることとした。児童の身近に起こりうるいじめについて、児童がより自分事として考えることができるようにするために「いじめについて考えよう」をテーマに設定した(図9)。教科書では、「いじめの防止」を重要なテーマとして掲げ、複数教材や関連するコラムをユニットとして配列している。本研究では教科書で配列されているユニットを基に、いじめを直接的に扱う教材、間接的に扱う教材、いじめ防止に関するコラムを組み合わせた。また、「ユニット学習のまとめの時間」では、「DARS」を見返し、もう一度テーマについて考える時間を設定した(p.26資料4)。ユニット学習の導入では、児童が学習の見通しをもつことができるよう、「ユニット学習とは何か」「なぜ、ユニットで学習するのか」「どのように学習を進めていくか」について説明した。さらに、ユニット学習前後の考えの変容を児童自身が捉えられるようにするために、現時点におけるいじめについての考えをもつ時間を設けた。「ユニット学習のまとめの時間」では、いじめの四層構造について説明し、三つの教材の内容を踏まえ、児童とやりとりをしながら登場人物を「いじめの四層構造」の中に位置付けた(図10)。図10を架空のクラスと仮定し、「児童本人もそのクラスの一員だったら、想定されるいじめに対しどのように関わるか」を考え、ペアやグループで交流した(表6)。

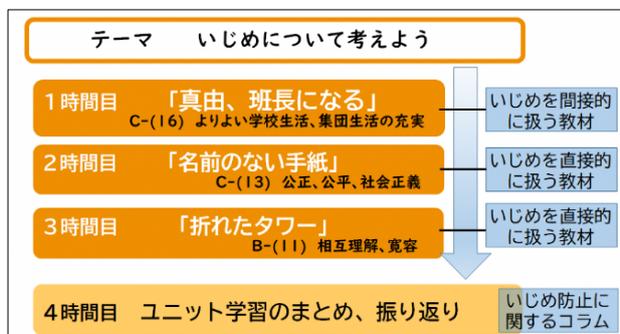


図9 ユニット学習の流れ



図10 教材の登場人物をいじめの四層構造に位置付けた図

表6 グループで自分の考えを交流し合う様子

C1: ぼくは、自分からEさんやCさんに近づいていって、どうしてそういうことをするのか、何が嫌だったのか聞いてみる。それをいじめられている子に伝えて、一緒に解決方法を考えるよ。

C3: C1さん、すごいね。

C2: そういう方法もあるね。ぼくは、いじめられている子になるべく寂しくならないように積極的に話しかけるよ。無視されていることは伝えなければ。

C3: 私は仲裁者にはなれないと思う。直接言えない代わりに、IさんとAさんに声をかけてみて、仲間をつくって先生に言おうかな。

C2: クラスの雰囲気によっては、C3さんのその方法もありかもしれないな。

C4: 何とかしたい気持ちはあるけれど、何もできないかもしれない。私は、先生に相談するかな？

C1: いろいろな考え方があるね。

T : グループでの交流は終わりましたか？自分の考えと友達のと違うはありましたか？

C : (うなずく、首をふる等)

T : 少し時間をとるので、他のグループの人の考えも聞いてみましょう。

授業の終末では、ユニット学習で学んだことや考えたことを記述し、「DARS」に蓄積する時間を設けた(表7)。記述した内容は、家庭でも「DARS」を見返しながら、家の人に伝え、コメントをもらうよう促した。

第3学年の実践では、「よいクラスになるためには、一人一人がどのようなことを大切にすればよいだろう」というテーマでユニット学習を行った。教科書で配列されているユニットを基に、「たからさがし A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任」「同じなから C-(13)公正、公平、社会正義」「たつきゅうは4人まで B-(10)友情、信頼」の異なる内容項目、三つの教材でユニットを組んだ。

表7 A 児が書いたユニット学習のまとめ

自分だったらどうする?どう関わる?
・同じ出来事で仲裁者になったことのある吉野さん(登場人物I)、またはまさる(登場人物J)に話す。 ・同じ被害にあったことのある井上さん(登場人物A)に話をしてみる。 ・A 夫に話しかけてみる。
ユニット学習を終えて ※下線は、提示した視点
<u>いじめについてどう考えたか</u> やられると嫌な気持ちになり、やってはいけないこと <u>自分が大切にしたい考え方、大切にしたいこと</u> なるべく被害者を出さず、被害者が出ても傍観者を増やさないようにしたい。 <u>これから何をどのように生かしていくか、いきたいか</u> 広い心を持ち、正しいことをして、集団の役割を生かしていきたい。
授業の感想
今までのまとめができました。いじめについて深く掘り下げることができたので、これを生かして生活していきたいと思います。
お家の人からのコメント
徐々に道徳のノートを見させていただきました。自分の感想や自分の意見が書いていました。もし、そういうことが起こったら生かしていけるといいですね。

(5) 学期末や学年末における振り返り活動

児童が道徳科で学んだことを日常の生活と結び付けながら振り返ることができるように、二学期末の道徳科の振り返り活動と特別活動のキャリア・パスポートの作成を同時に行った。キャリア・パスポートは、児童が、各教科等を往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自分自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオである。「DARS」を基に、学習した道徳科での学びやその生かし方、学び方などについて自己の変容や成長を振り返る活動とは親和性が高い。そこで、以下の手順で振り返り活動を行った(表8)。表8の手順②において「DARS」を用いて、道徳科の振り返りとキャリア・パスポートの振り返りシートの共通項に着目しながら、道徳科と特別活動の学びを関連付けて振り返ることができた(表9)。

表8 学期末や学年末における振り返りの手順

①	キャリア・パスポートの振り返りで、二学期の目標と照らし合わせ、なりたい自分に近づくことができたかを振り返る。
②	「DARS」を用いた道徳科の振り返りやキャリア・パスポートの振り返りで学習や生活について振り返る。
③	道徳科の振り返りで、「DARS」を見返しながら、自分がそれぞれの「心」について意識して生活できたか、自分が変わったな、成長したと思うことはどんなことかなどを振り返る。
④	キャリア・パスポートの振り返りで「自分が成長したこと」を振り返る。

表9 道徳科の振り返りシートとキャリア・パスポートの振り返り(下線部は共通項)

道徳科の振り返りシート	キャリア・パスポートの振り返りシート
道徳科で、 <u>自分の考えを伝えられましたか。</u>	① <u>友達や家の人の話を聞くと、その人の考えや気持ちを考えることができましたか。</u>
道徳科で、 <u>友達の考えをよく聞きましたか。</u>	② <u>自分の考えや気持ちを、相手にわかりやすく伝えようと気を付けることができましたか。</u>

4 結果と考察

(1) 検証の視点1

「DARS」について、児童が振り返り活動における記述を保存・蓄積する際の操作性、「DARS」の視認性や振り返りやすさを視点として検証する。

ア 児童の活動の様子

一回目の授業では、振り返り活動における記述を保存する際に戸惑う児童の姿が見られたが、授業の回数を重ねるごとに、画像をトリミングするなどの工夫も見られ、スムーズに「DARS」に保存していた。二回目の授業以降では、授業前から「DARS」を開いて見ている児童がいた。児童にその理由を尋ねると、「この前、道徳で何を学習したのか確認したいから。それと、今日学習する心はどれか知りたくて。溜まった DARS を見るのがうれしい。」と回答した。授業中にも「DARS」を開き、拡大して自分の記述を確かめる児童の姿が見られた。

イ 児童の事前・事後アンケートの結果

「DARS を見返して、自分が書いたことや考えたことを振り返ることがあるか」という質問において、「ある」と答えた児童が40.6%となり、事前の道徳ノートを見返すことよりも、15%増加している(表10)。一方で、事後アンケートでも「あまりない・ない」と答えた児童が50%いる。「DARS を家で見ているか」という質問においては、56.3%の児童が「見ている」と答えていた(表11)。「家の人に道徳の話をする時、DARS を使っているか」という質問においては、「使っている」の児童は30.2%に留まった(表12)。「DARS」についての感想を自由記述で求めると、操作性、視認性、一覧性についての記述が見られた(表13)。自由記述の中で、64名中55名の児童が「DARS」を活用することのよさを実感している。一方で、9名の児童が「いらぬと思う・生かしていない・あまり見ていない・分からない」と答えている。

表 10 ○○を見返して、自分が書いたことや考えたことを振り返ることがあるか

	ない	あまりない	ある	よくある
事前 (道徳ノート)	25.0	38.9	25.0	11.1
事後 (DARS)	17.2	32.8	40.8	9.4

数値は% 回答者数=72 (64)

表 11 DARS を家で見ているか

	見てない	見ている
事後	43.8	56.3

数値は% 回答者数=64

表 12 家の人に道徳の話をする時、DARS を使っているか

	使っていない	使っている
事後	69.8	30.2

数値は% 回答者数=64

表 13 「DARS」に関する自由記述

操作性	<input type="checkbox"/> 後からすぐに見返することができる <input type="checkbox"/> 貼るのが簡単 <input type="checkbox"/> 4つの窓がうまくっていきのが面白い
視認性 一覧性	<input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめて見られる <input type="checkbox"/> 過去の振り返りが四つの窓ごとに見られて、分かりやすかった <input type="checkbox"/> DARS を見ると大切なことを思い出すことができる <input type="checkbox"/> DARS に今まで学習した全てのことが詰まっていて思い出のようになった <input type="checkbox"/> 自分のことがよく分かった <input type="checkbox"/> 成長や足りないところに気付いた
その他	<input type="checkbox"/> いらぬと思う <input type="checkbox"/> 生かしていない <input type="checkbox"/> あまり見ていない

ウ 教員アンケートの結果

表14から、児童同様、一覧性のよさについての記述が多いことが分かる。

表 14 「DARS」に関する自由記述

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 自分が学習してきたことが目に見えて分かるので、達成感も感じるし、振り返ることができるので、よいなと思った
<input type="checkbox"/> 児童が四つの視点や内容項目を分かりやすく振り返ることができた
<input type="checkbox"/> 一年間で自分がどんなことについて考えを深めてきたのか分かってよいなと思った
<input type="checkbox"/> 「DARS」に振り返りの記述を蓄積することを楽しんでいる |
|---|

以上のことから、「DARS」は児童が道徳科の学びを可視化して捉えることができ、自らの学びを一覧しながら振り返ることができる点では有効であったと考える。学習者用端末に作成したことによって、児童が授業で学んだことを家庭でも話すことができるが、学んだことを日常生活とのつながりの中で意識できるようにするためには、「DARS」を見返すことの意味やよさを説明する必要があると考える。

(2) 検証の視点2

「道徳科オリエンテーション」について、児童が道徳科の学び方について見通しをもつことができたかについて検証する。

ア 児童の事前・事後アンケートの結果

事前アンケートで、「道徳科は何を学ぶ時間か」という質問に対して、72名中9名の児童が「分からない」と答えていた。事後アンケートでは、「分からない」という児童は0となり、個人差はあるが、自分の言葉で道徳科が何を学ぶ時間か表現することができていた(表15)。

表 15 道徳科は何を学ぶ時間か

	事前	事後
B 児	分かりません	人と心の関係などを学ぶ時間
C 児	分からない	自分の気持ちやみんなの気持ちを深める時間

イ 道徳科オリエンテーションの振り返り活動

道徳科オリエンテーションの振り返り活動において、「道徳科で何をどのように学ぶのか」について26名中15名が、また、9名が「学び方」について記述をしていた。自分の考えを伝えることや友達の考え方を聞くことの大切さに気付いたり、「自分の考えに自信をもてた」と答えたりした児童もいた。事前アンケートにおける「道徳の授業は好きですか」という質問に対して、「あまり好きではない」と回答した3名の記述を示す(表16)。3名とも、道徳科に対する今までの学び方を振り返り、今日の道徳科オリエンテーションでの学びやこれからどのように道徳科に取り組んでいきたいか、という点で記述していた。また、26名の児童全員に、道徳科の授業への意欲を高めている記述が見られた。

表 16 オリエンテーション時の振り返りの記述

D 児	今までは道徳の授業をしている時に、自分の考えがない時もあった。今日の学習で、自分で考えたことを自由に言ってよくなって分かったし、自分の考えに自信がもてた。これからは、自分の考えをもっと書こうと思う。
E 児	今まではどちらかというと、面倒くさかったけど、今日の学習で「心」について考えてみると面白そうだった。「心」について、もっと考えようと思った。これからは、「心」についてもっといっぱい考えて、いろいろな人と話せるようにしたい。
F 児	今までは自分の意見を言うだけでよいと思っていた。今日の学習で、友達との意見交換で友達の意見をよく聞き、友達としっかり話せた。これからは、道徳の授業だけではなく友達と話す時に、友達の意見をよく聞くということを守っていきたい。

ウ 教員アンケートの結果

オリエンテーションについて、指導者として、「今まで年度初めに簡潔に行っていましたが、今回のようにもう少し深く掘り下げてもよいかと思いました」等の意見があった。また、児童の姿として、「オリエンテーションを通して、何を学ぶのが明確になり、毎回の授業で四つの窓のことを意識できるようになった」との意見があった。

以上のことから、オリエンテーションを実施したことは、児童が道徳科の学び方について見通しをもち、意欲を高めることにつながった。また、指導者が道徳科の学び方について指導する際の内容の改善につながったと考えられる。

(3) 検証の視点3

「一単位時間における振り返り活動」「ユニット学習における振り返り活動」「学期末や学年末における振り返り活動」の三つの振り返り活動を位置付け、「DARS」を活用することで、自己の変容や成長に気付く児童の姿に近づくことができたか」について、以下の視点で検証する。

- 今までの自分の経験や今の自分との関わりで考えている。
- 多様な考えに気付いている。
- 自分の考えのよさを再認識したり、自分の考えに新たな考えを加えたりしている。
- 自分のよさや可能性に気付いている。
- 新たな課題や目標を見付けている。

ア 一単位時間における振り返り活動において

(7) 児童の記述内容

振り返りの視点「今までは(も)～、今日の学習では～、これからは～」を提示した結果、三つの視点に沿って記述した児童は、一回目の授業では、25名中(欠席3名)17名、二回目の授業では、25名中(欠席3名)15名、三回目の授業では25名中18名であった。自分との関わりで、道徳的価値のよさや大切さについて振り返ったり、多様な考えに気付いたり、自分の考えのよさを再認識したり、自分の考えに新たな考えを加えたりしている記述が見られた(表18波線部)。なお、三つの視点に沿って書いていても、その記述内容には差があるので、表17を基に、検証の視点について見取ることとした。

表17 振り返りの記述分析の段階

視点	段階	内容
今までは(も)～	◎	・日常生活を想起し、具体的な出来事を通して自己を見つめている。道徳的価値について表現している。 例「～をした時に、～になった時」
	○	・自己を見つめている。例「～についてあまり考えたことがなかった」
	●	・自己を見つめる記述がない。
今日の学習では～	◎	・ねらいとする道徳的価値に気付き、理解している。・板書の内容や自分の言葉で表現している。 例 文末「～と考えた、学んだ、気が付いた、改めて知った」
	○	・教材中での人物の言動や出来事についてふれているが、道徳的価値を自分事として捉えていない。 ・ねらいと異なる道徳的価値についての理解である。 例「主人公が～～できてすごかった、間違っていた。」「相互理解・寛容の授業で、『感謝について考えた』など」
	●	・道徳的価値について触れた記述がない。・考えをもつことや意見を言うことの大切さ等について書いている。 例「みんなの意見が聞けて良かった、参考になった。」「意見が言えて良かった」
これからは～	◎	・ねらいとする道徳的価値に対して、自分事として捉え、具体的に実践していきたいことを表現している。 例 文末「～のように生活していきたい、～のように過ごしていきたい、～を大切にしていきたい」
	○	・学習した道徳的価値を実践していこうとする意欲の記述はある。 ・ねらいと異なる道徳的価値についての意欲である。 例「広い心をもって生活していきたい。」
	●	・日常生活で実践していこうという意欲の記述がない。

ユニット学習の3時間目に扱った「折れたタワー」の授業において、振り返りの記述について分析を行った。分析するに当たっては、振り返りの記述内容を段階に応じて児童の言葉でイメージしておくことが大切である。分析した結果、25名中7名が三つの視点において◎の段階で記述することができていた。また、三つの視点とも●の段階や未記入の児童はおらず、いずれかの視点で自分の考えを記していた。ただ、三つの視点のうち、「今日の学習では～」においては、◎の段階で記述できた児童が他の視点に比べて少なかった。◎の段階のG児と○の段階のH児の記述内容を示す(表18、表19)。この視点を◎の段階で

記述できるようにするためには、発問の精選や板書の工夫を行い、教材を離れて、児童が道徳的価値を自分事として捉えることができるようにしていくことが必要であると感じた。○の段階の児童においては、その場で問いかけたり、教師からのコメントの際に、記述内容を「もう少し、詳しく言うと？」等と具体化したり、「自分の生活のどんなところで生かせそうか」等と実践意欲につながられるようなコメントをつけられるとよいと考える。

表 18 振り返りの三つの視点が◎の段階児童の記述内容

G 児	今までは、 <u>広い心をもっている人はただ優しい人</u> とっていました。	(自己を見つめ、道徳的価値について表現している)
	今日の授業で、みんなの意見を聞いて、 <u>ただ優しいではなく、相手のことを考え、これからのことを考えて、安心して生活できる方を選んだりして後のことも考えられる人</u> のことだと思いました。	(道徳的価値について自分の言葉で記述している)
	これからは、 <u>自分も広い心ということを理解しながら生活していきたい</u> です。	(自分事として捉え、実践意欲を記述している)

表 19 振り返りの三つの視点が○の段階の児童の記述

H 児	今までは、嫌なことがあったら切れていた。 今日の授業で、広い心をもつことが大切だと思った。 これからは、広い心をもって生活していきたい。
-----	--

(イ) 抽出児の変容

I 児は事前アンケートで、「道徳ノートに振り返りを書く時、どのようなことを書いていますか」という問いにおいて、「今日のお話について、友だちの考えについて」と答えていた。I 児について、振り返りの視点の提示前後を示す(表20)。

表 20 I 児の変容

振り返りの視点 提示前	マンガ 手塚治虫	自分だったら、れっとう感であきらめてしまうと思うし、自分の長所を見つけられないと思う。
振り返りの視点 提示後	折れた タワー	今までは、広い心は別になくてもいいと思っていた。 今日の学習で、広い心は友達が増えるなどのよさがあるので広い心をもっていこうと思った。 これからは、小さなことなら友を許す。怒らないようにしたい。

提示前は、「今日の学習で何を学んだか、これからはどうしていきたいか」の記述がなかった。しかし、提示後は、今までの自分のことだけではなく、今日の学習で学んだことやこれからの自分についての記述が見られる。また、I 児に聞き取りを行ったところ、振り返りの視点があることで、「振り返りに何を書けばよいのか、分かりやすくなった」と、答えていた。

(ウ) 教員アンケートの結果

事後に第5学年、第3学年、管理職、研修主任の8名に記述式でアンケートを行った。振り返りの視点について、以下のような意見があった(表21)。

表21 振り返りの視点について(教員アンケートより)

<ul style="list-style-type: none"> ・視点を提示することにより、子供たちも振り返りをしやすくなったように感じる ・児童の振り返りから授業を通しての心の変容がよく分かる ・書き慣れてくると内容が深まる ・自分の考えの変容を客観的に見ることができる ・視点があることで、形骸化してしまい、深まりのない振り返りになってしまうのではないか

振り返りの視点があることで、児童は学んだことを自分の経験と結び付けて書くことができるようになったり、学習前後の自分の考えの変容に気付くことができるようになったりしたと考えられる。ただ、「視点があることで、形骸化してしまい、深まりのない振り返りになってしまうのではないか」との意見もあった。今回の研究では、児童の振り返りの記述内容の充実を図るために振り返りの視点とともに、書き出し例を示したが、児童が振り返り方を理解できた際には、書き出しまで指定をしなくてもよいと考える。

イ ユニット学習における振り返り活動において

(7) 抽出児の記述

以下の2名を抽出し、いじめの捉え方についてどのように変容したか捉えることとする。J児については、事前アンケートで「道徳科の授業があまり好きではない」と答えていた。その理由として、「書くところが、上手に書けず発言もあまりできないから、感想とか発表が恥ずかしいから」を挙げていた。K児については、「道徳科の授業が好き」と答えていた。その理由として、「国語や算数とは全く違う勉強で、いろいろためになる教材がいっぱいあるから」を挙げていた。

2名とも、オリエンテーションの際のいじめの捉え方より、ユニット学習のまとめの方がいじめについて深く捉えることができていた。J児は、オリエンテーションでは「行動・言動など考える」と記述していたが、まとめでは、いじめについて自分なりに再考し、これからの自分について詳しく書いていた(表22点線部)。K児は、オリエンテーションの時点でいじめについて「いじめはダメなことである」と記述していた。まとめでは、友達と交流したことで多様な考えを知ったことやこれからの自分について詳しく書いていた(表23点線部)。2名とも共通して、学習した三つの内容項目にも触れ、自分が大切にしていきたいことについて記述することができた。

表 22 J児の記述

	授業	記述内容
ユニットのオリエンテーション	いじめについてどう考えているか(ユニット学習前)	ほんの小さなことでも、いじめが発生するかもだし、行動・言葉など考える。
道徳「真由、班長になる」	よりよい学校生活、集団生活の充実	今までは、班長になったことはなかったけれど、周りを見て、少しだけ林間学校でサポートができた。今日の学習で、集団、班で協力とか、周りの人の存在、班長の大変さとかが分かった。これからは、もっとサポートしながら、班長にもなって真由みたいにまじめたい。
道徳「名前のない手紙」	公正、公平、社会正義	今までも、いじめはしたことがないけれど、相手にされたことで、「何でかな」とか「嫌だな」とか心の中で思ったこともあった。今日の学習で、いじめで人は変わり、時に良→悪になったり、悪→良に変わったりするのだなと思った。これからは、いじめを見かけたら勇気をもって、助けようという気持ちを大切にしていきたい。
道徳「折れたタワー」	相互理解、寛容	今までは、「プリンがとられた」としたら許せない気持ちになるけれど、今日の学習で、広い心をもつと、信頼される、友達が増える、喧嘩が少なくなるなどがあるんだと思った。これからは、「プリンが取られた」でも、許さなくても許せない気持ちがあってもいいけど、許せる気持ち60~100%、許せない気持ち40~0%とかに押さえていきたい。
ユニットのまとめ	いじめについてどう考えているか(ユニット学習のまとめ)	いじめが加害者の自分の良い気持ちを失うこともあるし、被害者は、今までは違う気持ちが表れ、時には小さなことで心がげに行ってしまうかもしれないし、いろいろあるんだと思います。広い心、集団の役割、正しいことをする心、広い心で過ごしたいです。誰かがいじめられていたら考えると、自分は勇気も出ないから、いじめられている人を慰めていきたいです。

表 23 K児の記述

	授業	記述内容
ユニットのオリエンテーション	いじめについてどう考えているか(ユニット学習前)	いじめはいけないことだと思うし、一つの発言で辛くなる人がいるからいじめはダメだと思う。遊びとかで他に悪口を言ったり、嫌だから陰口を言ったりしていて、その本人が嫌がったらそれでいじめなんだと思う。いじめは悪口を言っているつもりじゃなくても本人が嫌だったらダメなんだと思う。
道徳「真由、班長になる」	よりよい学校生活、集団生活の充実	今までは、あまり班長の役割についてあまり考えてなかった。今日の学習で、班長やメンバーの役割や、どのように過ごしたらいいかが分かった。これからは、班長になったら他の人の意見に耳を傾けたい。また、班長ではなくても班長のいうことを聞きたい。
道徳「名前のない手紙」	公正、公平、社会正義	今までは、もしもいじめがあっても、「やめて」とか「やめよう」などが言えなかったと思う。今日の学習で、話す勇気が必要だと分かった。これからはいじめがあったらすぐに注意したい。
道徳「折れたタワー」	相互理解、寛容	今までは、あまり他人の立場をあまり気にしてなかったけれど、今日の学習で、広い心をもって生活するのが大切なんだなと思った。これから生活する中で、広い心をもつということを大切に過ごしたい。相手の立場を考えていきたい。
ユニットのまとめ	いじめについてどう考えているか(ユニット学習のまとめ)	いじめは、傍観者が仲裁者にならないといけない。いじめられて嬉しい人はいないから、いじめはしちやだめだと改めて思った。これから自分が大切にしたいのは、正しいことは何かを考えて生活を送ること。これから、広い心をもってクラスの中で過ごしたい。今まではいじめがあってもあまり関わらないようにしていたと思うけれど、今回の授業で架空のクラスでいじめがあったらどうするか、じっくり考えられた。友達に注意するとか先生に言うとか書いていて、考え方や行動が人によって違った。これから、もしも授業みたいになっていてもあまり行動できないかもしれないけれど、勇気を出してダメだよと言える人になりたい。

(イ) 児童の事後アンケートの結果

児童の事後アンケート「いじめについてユニット学習したことについて、良かったこと、印象に残ったこと、気付いたことなどを自由に書いてください」では、ユニットとして学習したことで、いじめについての理解が深まり、児童が自分の考えのよさを再認識したり、

新たな課題や目標を見付けたりしている、「いじめはやっぱりよくない」や「これからは、～のようにしていきたい」という記述が62名中59名で得られた。ユニット学習として複数の内容をつなげた「一つ一つの話でいじめについて考えていたけれど、違う考えがそれぞれあっていじめについて学習できたと思いました」や「これまであまり考えていなかったいじめだけれど、ユニット学習でいろいろな心と、大切にすることが分かった」等の記述が5名から得られた。

(ウ) 教員アンケートの結果

事後に第5学年、第3学年、管理職、研修主任の8名に記述式でアンケートを行った。「ユニット学習でテーマを設定して取り組んだことで、学級づくりや人権集中学習につながった」という意見があった。また、「同じテーマで集中的に取り組むことで、道徳的価値の理解が深まる」という意見もあった。

ウ 学期末や学年末における振り返り活動において

(ア) 児童からの聞き取り

「DARS」を見返している児童に、その場で二つの質問を行った。「DARSを見返すと、道徳科の振り返りは書きやすいか」については、「DARSを見ると、どんな心について考えたのか分かるし、自分が大切にしたいか考えた考えも思い出せる」と答えていた。また、「道徳科の振り返りとキャリア・パスポートの振り返りを同じ時間に行ったことで何か思うことはあるか」については、「道徳科の学びが生活につながっていることを意識できた、DARSを見返しながら生活の中でできるようになった、大切にしている考え方などについて振り返るとその場面を思い出して、キャリア・パスポートの中に記述できた」と答えていた。

(イ) 児童の記述内容

教材の内容ではなく、学習した道徳科での学びや学び方などについて振り返ることができ、自己理解を深めながら、自分のよさや可能性に気付く記述が見られた(表24)。

以上のことから、三つの振り返り活動を位置付けたことは、児童が、今までの自分の経験や今の自分との関わりで考え、友達との交流等を通して、多様な考えに気付いていたり、自分の考えのよさを再認識したり、自分の考えに新たな考えを加えたり、自分のよさや可能性に気付いていたり、新たな課題や目標を見付けたりしている様子が見られ、目指す児童の姿に近づいたと考えられる。

表 24 L 児の学期末の道徳科の振り返りの記述

道徳科の振り返りの設問	記述内容
○道徳科の学び方で、できるようになったこと、頑張ったことを詳しく書きましょう。	去年よりも、友達と自分の考えの両方を尊重できるようになったと思う。また、優しさやいじめについて、色々知れたと思うし、他人の考えをよく聞けるようになった。
○「DARS」を見て、自分が成長したと思うことを書きましょう。 (生活の中でできるようになったこと、大切にしている考え方など)	自分がなかなか気付かなかったことを、道徳の授業で気付かせてくれる。自分も周りも考え方は違うけれど、何かを大切に思うことや、嫌と思うことがあるのは同じで、少しでも、他人の長所を見つける。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

「児童が自己の変容や成長に気付くこと」について、以下に示す。

表25の質問において、「よくある」が7.3%増加した。数値としては大きな変化ではないが、理由として「友達の考えを聞いて確かにそうだななどと新しい考え方が生まれたから」等が挙げられた。表26の質問において、「よくある・ある」が15.2%増加した。表27の質問において、「DARS」を見返すと自分の成長に「よく気付く・気付く」と答えた児童は60.9%であった。図11に示した「道徳科の授業を通して、自分が成長したと思う理由」については、他者との関わりや日常生活と関連付けて、自己の成長について振り返っている記述が見られた。

以上のことから、「DARS」を活用して振り返り活動を行ったことは、児童が自らの学習状況を把握しやすくなり、自己の変容や成長の気付きにつながったといえる。

学んだことや考えたことを蓄積し、一覧で自らの学びを俯瞰してみる。今までの授業では、振り返りが「点」としての活動になってしまっていた。「DARS」は、その「点」と「点」をつなげ、道徳科が継続的な学びであることを意識できるように、児童が成長を感じられる活動になるように研究を進めてきた。教師からの評価だけでなく、児童が見通しをもって、主体的に学ぶためにも自己評価は大切であることを実感した。

表 25 道徳科の授業で、友達の意見を聞いて、自分の考えが変わったことがあるか

	ない	あまりない	ある	よくある
事前	6.9	16.7	68.1	8.3
事後	6.3	10.9	67.2	15.6

数値は% 回答者数=72 (64)

表 26 道徳科の授業を通じて、自分が成長したと思うことがあるか

	ない	あまりない	ある	よくある
事前	11.1	29.2	54.2	5.6
事後	7.8	17.2	62.5	12.5

数値は% 回答者数=72 (64)

表 27 DARS を見返すと自分の成長に気付くか

	気付かない	あまり気付かない	気付く	よく気付く
事後	18.8	20.3	53.1	7.8

数値は% 回答者数=64

表 26 の質問で「よくある・ある」と答えた児童の理由

- ・人に優しく接せるようになったと言われたから。
- ・人の気持ちを考えて発言や行動ができるようになったから。
- ・喧嘩の数が減ったし、喧嘩しても仲直りできるようになったから。
- ・道徳科の授業を通して、「確かにそうだな、この主人公みたいになりたいな」と思って生活しているから。
- ・道徳科の授業で学んだことを生活に生かせたから。
- ・道徳科の授業を通して、今までの自分の考えが改まったから。
- ・今まで気にしていなかったことについて、道徳科の授業で学んだことを結び付けて時々思い出すから。

表 26 の質問で「ない・あまりない」と答えた児童の理由

- ・学習でしたことを生かしていないから。
- ・そんなに成長したなと思えないから。
- ・ないわけではないけれど、成長した心当たりがあまりないから。

図 11 道徳科の授業を通して、自分が成長したと思う理由

2 今後の課題

表27の質問において、「気付かない・あまり気付かない」と答えた児童は39.1%であった。39.1%の児童のうち、p.16の表10において、「あまりない・ない」と答えた児童が68%おり、自分の成長に気付かない児童は、「DARS」を見返す習慣がないことが分かった。全ての児童が「DARS」を見返したときに、自分の成長に気付けるようにしていくためには、児童の記述に対し、教師から認め励ますコメントを添えてから蓄積するなど、「DARS」の活用方法をさらに工夫する必要がある。また、特別活動において、道徳科の学習内容の内容項目の心に触れるなど、行事や他教科との関連を図り、意図的に「DARS」の活用場面を設定していくことも考えられる。

自己を振り返る際に必要なのは、自分のよさや課題を見つめ、「こうなりたい」という見通しをもつことである。そのためには年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習活動を設定する必要がある。「なりたい自分」について考える学級活動の時間と道徳科のオリエンテーションを関連付けることも有効であろう。キャリア・パスポートにおける「なりたい自分」に、「DARS」の「内容項目の心」を生かす取組も継続したい。児童の姿を捉えて、道徳科での学びと自分の将来や生活とをいかに結び付けるか、今後の「DARS」の活用において大切にしていきたい視点である。

〈引用・参考文献〉

- 赤堀博行 (2021). 「道徳的価値の見方・考え方」東洋館出版
- 浅見哲也 (2020). 「こだわりの道徳授業レシピ」東洋館出版
- 浅見哲也 (2021). 「道徳科 授業構想グランドデザイン」明治図書出版
- 浅見哲也 (2023). 問題意識をもち、自己の生き方を考える道徳科の授業「初等教育資料」2023年3月号 pp. 40-43. 東洋館出版社
- 浅見哲也 (2023). 「考え、議論する道徳」をスタート！こだわりの授業開き2023「道徳教育」2023年4月号 pp. 4-9. 明治図書出版
- 内田淳 (令和2年度). 教師が協働的に道徳科に取り組むためのカリキュラム・マネジメントについて—ユニットを導入した年間指導計画の作成を通して—群馬県総合教育センター 長期研修員
- 加藤宜行 (2022). 「考え、議論する道徳に変える 導入・終末&評価の鉄則31」明治図書出版
- 木村有佑 (2022). 生徒自らが学びを振り返りながら学習し、成長を実感できる中学校道徳科の授業改善—1人一台端末を用いた学習履歴を組織的に活用することを通して—滋賀県総合教育センター
- 坂本哲彦 (2020). 「テキストブック 授業のユニバーサルデザイン道徳」一般社団法人日本授業UD学会
- 島恒生 (2020). 「小学校・中学校 納得と発見のある道徳科『深い学び』をつくる内容項目のポイント」日本文教出版
- 田沼茂紀 (2023). 「考え、議論する道徳」をスタート！こだわりの授業開き2023「道徳教育」2023年4月号 pp. 78-79. 明治図書出版
- 田沼茂紀 (2022). 『『365日の全授業』DX 小学校道徳』 明治図書出版
- 田沼茂紀 (2017). 「指導と評価の一体化を実現する道徳科カリキュラム・マネジメント 小学校編」学事出版株式会社
- 土田晃久 (H29). 児童が自らの成長を実感する道徳科の評価の研究—児童の自己評価と関連付けた個人ない評価を通して—福岡市教育センター 道徳科 長期研修員
- 永田繁雄 (2016). 小学校新学習指導要領の展開 特別の教科道徳編 pp. 32 明治図書出版
- 永田繁雄 (2017). 「道徳科」評価の考え方・進め方 教育開発研究所
- 前田康裕 (2022). メタ認知を高め、自己調整力を育む 「振り返り」を再考する 「子どもたちが学びとる授業」の実現のために [https://www.sky-school-ict.net/shidoiyoroy/221014/\(20230608\)](https://www.sky-school-ict.net/shidoiyoroy/221014/(20230608))
- 文部科学省 (2018). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 道徳編 廣済堂あかつき
- 安井政樹 (2023). 「特別の教科道徳 指導と評価支援システム」 東洋館出版社

【教科用図書】

日本文教出版 小学道徳 生きる力5 平成31年検定済

【資料1】振り返り活動における道德ノートの記述内容を蓄積した「DARS」

かけがえのない いのちを尊重する 心	自然の偉大さを知り 自然環境を大切に する心	美しいものや 気高いものに 感動する 心	よりよく生きよう とする人間として 生きる喜びを感じる 心	自由を大切に し自律的な責任 ある行動を する心	誠実に明るく 生活する 心	自分の生活を 見直しやり すぎない 心	短所を認め 長所をのぼす 心	より高い目標 へくしげずや り抜く 心	真理を探究し ようとする 心		
	10				15			20	28		
24			35	31		33					
命や自然 のこと					自分の こと						
みんなの こと					相手の こと						
19	34	21	27		32	26		30	29		
			23		7	25					
自他の権利 を大切に し義務を 果たす 心	差別せず 公正、公平 に接し正義 を実現し ようとする 心	働くこと の意味を理 解し公共 のために 役立つ ことを する心	家族の幸 せのため に役立 つこと をする 心	自分の役 割を自覚 しより よい集 団をつ くろう とする 心	伝統や文 化先人の 努力を大 切にし 日本人 として 親善に 努める 心	いろいろ な国を 尊重し 日本人 として 親善に 努める 心	相手の立 場に立 ち親切 にする 心	まわりの 人の支 えや助 け合い に感謝 する 心	礼儀正し く真心 をもっ てけっ する 心	友達と互 いに信 頼し賢 性も理 解しな がら関 係をつ くる 心	広い心 で違う 立場や 意見も 尊重 する 心

①みんなから出た言葉や絵画を使って、視覚に沿って振り返りを書こう。

今まではみんなの気持ちと考えるだけだ。今日の学習で、よりよい行動をした。今、みんなが気持ちよくできることが分かった。これからは、みんなをよりよくしていきたい。

**差別せず
公正、公平
に接し正義
を実現し
ようとする
心**

①みんなから出た言葉や絵画を使って、視覚に沿って振り返りを書こう。

・いままでは、みんなに合わせる自分ばかりじゃありません。自分らしくいられるようにしたいと思っています。

・今日の学習で、一人の勇気がなにかを変えられることを知りました。

・これからは、勇気を出してという思いがあります。

**自分の役割
を自覚し
よりよい
集団を
つくり
よう
とする
心**

①振り返りの感想に沿って書こう。

前まで、ひろしと同じことがあった。ゆるゆるな気分だ。

今回の学習で、広い心と、その良さを知った。

これからは、みんなの問題でも、広い心をもて接しようと思った。けれど、ずいぶん広い心でつかれてしまふから、たまには、おこることも大切だと感じた。

**広い心で
違う立
場や意
見も
尊重
する
心**

【資料2】4つの窓にある内容項目の表記と置き換えの言葉「〇〇の心」（高学年）

自分のこと	内容項目の表記	善悪の判断、自律、自由と責任	正直、誠実	節度、節制	個性の伸長	希望と勇気、努力と強い意志	真理の追究	
	置き換えの言葉	自由を大切にし自律的な責任ある行動をする心	誠実に明るく生活する心	自分の生活を見直しやりすぎない心	短所を改め長所をのぼす心	より高い目標へくじけずやり抜く心	真理を探究しようとする心	
相手のこと	内容項目の表記	親切、思いやり	感謝	礼儀	友情、信頼	相互理解・寛容		
	置き換えの言葉	相手の立場に立ち親切にする心	まわりの人の支えや助け合いに感謝する心	礼儀正しく真心をもってせつする心	友達と互いに信頼し異性も理解しながら関係をつくる心	広い心で違う立場や意見も尊重する心		
みんなのこと	内容項目の表記	規則の尊重	公正、公平、社会正義	勤労、公共の精神	家族愛、家庭生活の充実	よりよい学校生活、集団生活の充実	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	国際理解・国際親善
	置き換えの言葉	自他の権利を大切にし義務を果たす心	差別せず公正、公平に接し正義を実現しようとする心	働くことの意味を理解し公共のために役立つことをする心	家族の幸せのために進んで役立ちようとする心	自分の役割を自覚しよりよい集団をつくらうとする心	伝統や文化先人の努力を大切にし国や地域を愛する心	いろいろな国を尊重し日本人として親善に努める心
命や自然のこと	内容項目の表記	生命の尊さ	自然愛護	感動、畏敬の念	よりよく生きる喜び			
	置き換えの言葉	かけがえのないのちを尊重する心	自然の偉大さを知り自然環境を大切にすること	美しいものや気高いものに感動する心	よりよく生きようとする人間として生きる喜びを感じる心			

【資料3】道徳科オリエンテーションの流れと使用したスライド

① 道徳科で学ぶこと

道徳って何する時間？

道徳の授業が始まります。道徳科って何をやる時間だと思いませんか？

道徳の授業が始まります。道徳科って何をやる時間だと思いませんか？

道徳科って何をやる時間だと思いませんか？

友達や周りの人たちと一緒に生活していくために大切な心を考え、よりよい生き方へと導く心をみんなで考えていく時間

四つの視点

道徳で学ぶ心には、4つの窓があります

自分のこと

相手のこと

みんなのこと

命や自然のこと

② 学び方と約束

交流の演習

①気付く

②考える・深める

③見つめる・生かす

2つの約束

友達の考えをしっかりと聞きましょう

自分の気持ちや考えを友達に伝えましょう

グループで話し合いをする時のルールはあるかな？

全員が話しましょう

全員の話聞きましょう

仲間がいれば、可能性は無限大。

①気付く

②考える・深める

③見つめる・生かす

③ 振り返りの視点

「DARS」の説明

これから、道徳の振り返りを授業の終わりに書く時には・・・

振り返りの視点

○今までの自分（今までは（も）、～）

○今日の授業（今日の学習では、～）

○これからの自分（これからは、～）

【資料4】ユニット学習のまとめの時間（学習内容）

○ユニットテーマ いじめについて考えよう

○本時のねらい これまでの学習を基に、ユニットテーマについて話し合い、自分の考えをまとめる。

学習活動	主な発問等	指導上の留意点及び支援
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて ユニット学習を振り返って、自分にできることを考えよう</div>		
<p>1 前時までの確認をする。</p> <p>2 教科書 p87「心のペンチ」の内容を知る。</p> <p>3 3つの話の登場人物をいじめの四層構造に当てはめる。</p> <p>4 架空のクラスの出来事について自分事として考え、自分だったらどのように関わるかをオクリンクのボードで表現する。</p>	<p>○これまで3回の授業で学んできたのはどんな心だろう。</p> <p>○3つの話の確認をする。 ・どんなお話だったかな？ ・どんなことを考えたかな？</p> <p>○いじめの四層構造について話をする。</p> <p>○それぞれの話の登場人物はどこにあてはまるかな？</p> <p>○このクラス、どう？</p> <p>○この登場人物全員が同じクラスだったとします。そして、自分もこのクラスの一員です。このクラスで次のような出来事がありました。</p> <p>○みなさん、自分だったらどうしますか。自分だったらどのように関わりますか。自分の考えを「自分だったらどうする？どう関わる？」*1のボードに書きましょう。</p> <p>○近くの人等に自分の考えを伝え、友達の考えを聞きましょう。</p> <p>○DARS に書いた、特に「今日の学習で～やこれからは～」のことをちょっと読み返してみよう。</p> <p>○架空の出来事で考えたら、もっと考えを深められそうですね。では、ボードに自分だったらどうするか、どのように関わるか書いてみましょう。</p> <p>○どのような考えができましたか。</p>	<p>○DARS を開くよう指示し、前時までの学習を想起できるようにする。</p> <p>○子供の言葉を用いた振り返りのまとめを提示し、「集団の役割」「正しいことをする心」「広い心」を確認する。</p> <p>○どの心が足りなくてもいじめにつながってしまう可能性があることをおさえる。</p> <p>○教科書の挿絵を大型提示装置に提示する。</p> <p>○児童と一緒に黒板で、いじめの四層構造に人物絵等を置く。</p> <p>○架空のクラスや出来事を設定し、自分がそのクラスの一員であることを伝え、自分事として考えることができるようにする。</p> <div data-bbox="927 763 1394 1066" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【架空の出来事】 このクラスに A 夫が転校してきました。A 夫は、勉強も運動も得意でした。ミッコは A 夫に負けてしまうこともあり、悔しくちょっと嫌だなど思っていました。そう思っていることを隣の席の健人に話をしました。すると、健人も「おれもちょっと苦手なんだよな。無視しちゃおうか。」と言い、ミッコも「そうだね。ちょっとならいいよね。」と言って、無視することにしました。近くの席だった、自分はこの2人の話が聞こえてきました。2人から始まった無視はあっという間にクラス中に広がっていき、A 夫は、一人、クラスで寂しそうに過ごすことが増えてきました。</p> </div> <div data-bbox="1043 1077 1214 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分だったらどうする？どう関わる？</p>  </div> <p>○多様な考えに触れることができるよう、交流する場を設定する。</p> <p>○A夫に対して、どのような関わり方があのか全体で共有する。</p> <p>○児童の発言から、「A夫に寄り添う、正しいことをするために仲間をつくる、助けを求める、直接止める」等の言葉を用いて、どのような関わり方があのか板書に整理する。</p> <p>○「ユニット学習を終えて」を書く時の視点を提示する。</p>
<p>5 ユニット学習を終えての振り返りや感想を書く。</p>	<p>○「いじめについてどう考えたか」「自分が大切にしたい考え方」などを感想に書きましょう。</p>	<div data-bbox="970 1480 1374 1749" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">提示した視点</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; color: red;">ユニット学習を終えて</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; color: red;">ユニット学習を終えて</p> <p>いじめについてどう考えたのか</p> <p>自分が大切にしたい考え方、大切にしたいこと</p> <p>これから何をどのようにいかしていくか、いききたいか</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; color: red;">今日の授業の感想</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; color: red;">授業の人からのコメント</p> </div> </div> </div>
<p>6 「DARS」に保存、提出する。</p>	<p>○提出物の確認をする。</p>	<p>○提出物する日時、提出場所等の確認をする。</p>